

山梨県理学療法士会会報誌

SUPPORTERS

サポーターズ

No.129 2011 春号

士会ホームページ <http://ypta.jp/>

会員数 609 名 施設数 89 (2月10日現在)



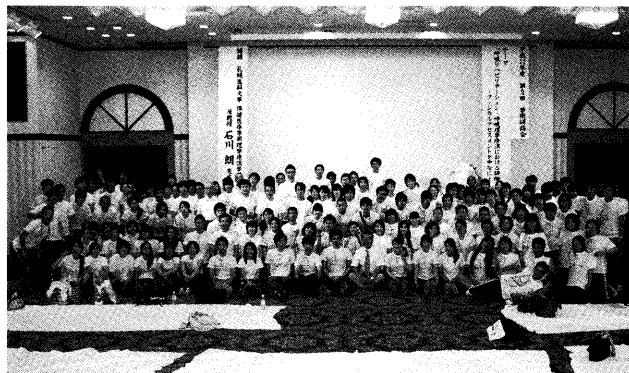
▲ 第 14 回山梨県理学療法士会学術集会 石井慎一郎先生の特別講演



▲ 第 14 回山梨県理学療法士会学術集会



▲ 第 4 回学術研修会



▲ 第 2 回学術研修会 (8月8日)



▲ いきいき山梨ねりんピック 2010 (9月25日)

Contents

- 「第 14 回山梨県理学療法士会学術集会」報告… 2
- 学会を終えて… 2～3
- 各部活動報告… 4
- 理学療法士に対するアンケート調査集計結果… 5
- お知らせ… 6
- 事務管理局より… 6

- 会員のひろば
- 「一年間を振り返って」「5年間を振り返って」… 7
- 「10年間を振り返って-他愛もないつぶやき-」… 8
- 「最近の学生の特徴」… 8
- リレーエッセイ Part 11… 9～10
- 原稿募集… 10
- 編集後記… 11

「supporters(サポーターズ)」とは・・・

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形の s を加え、supporters: 支える人たち(造語)の意味です。

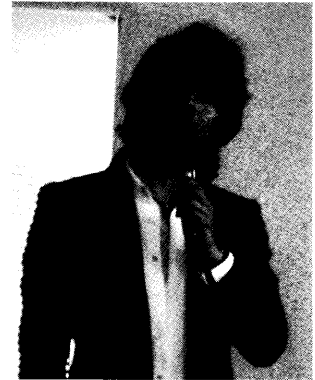
「第14回山梨県理学療法士会学術集会」報告

第14回山梨県理学療法士会学術集会が平成22年12月12日(日)山梨県立大学池田キャンパスにて開催されました。参加人数は278名と、大変活気のある大会となりました。午前には、神奈川県立保健福祉大学の石井慎一郎先生をお招きし、「関節疾患に対する理学療法戦略～バイオメカニクスと神経科学的観点からの再考～」をテーマに特別講演が行われました。3次元動作解析装置を使った研究を中心に、関節疾患患者さんの陥り易い問題や動作の背景について神経学的側面からの分析、また情動などの心理的側面からも丁寧に解説され、日頃から細かな運動・動作分析をしていくことが重要であることを改めて感じました。

午後からは県士会員による39の演題発表が行われました。各会場では活発な意見交換があり、例年に比べて経験豊富な先生方からの発表も多く、様々な知見を得られる良い機会となりました。



▲託児所を設置

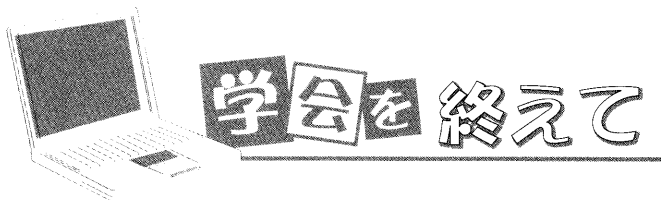


▲石井慎一郎先生

今回は山梨県立大学池田キャンパスをお借りして開催したわけですが、終了後にいただいたアンケートから「施設はきれいで好印象だった」という意見を多くいただいた反面、空調や音響の面で運営側への指摘を何点いただきました。より良い大会とするため、次回の運営に役立てていきたいと思っております。アンケートへのご協力ありがとうございました。

最後に本大会開催にご尽力いただいた県士会の皆様、講師・司会をお引き受けいただいた先生方、そして、大会運営に携わったスタッフの方々などご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

山梨県理学療法士会学術局学術集会部長 菊池 信

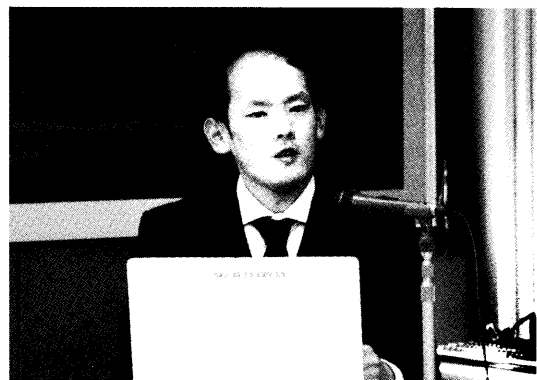


Report 1

都留市立病院 野崎健太先生

今回、1年前より準備をはじめてきた「TKA後、下肢腫脹出現に影響を及ぼす因子について」、一般演題で発表させて頂きました。TKA術後訓練場面で、患者様によって術後下肢腫脹と浮腫の程度に差異がある事に日頃より疑問を感じ、それに関連すると思われる要因について検討しました。実際に調査していくと術後下肢腫脹と浮腫の傾向がみられ、自分が予想していなかった傾向もあり、今後の課題も見つかりました。

また理学療法士4年目となり、改めて自分自身を見つめ直し勉強する良い機会となりました。発表するにあたり、時間を費やし勉強したこと、考えたことは自分に



とって大きなプラスとなりました。当日は、上手く発表できるか、質問に対し受け答えができるか不安でいっぱいでした。緊張しながらも何とか発表することができ、質問に対し上手く表現できないながらも答えることができました。

今回の研究、発表を通して、多くのことを学び、経験することができました。今後、臨床の中で、生かしていけるよう日々精進していきたいと思います。

最後に、御協力して頂いた患者様、職場の先生方に深く感謝致します。本当にありがとうございました。

Report 2

介護老人保健施設 ナーシングプラザ三珠 村松知美先生



今回、第14回山梨県理学療法士学会にて「寝たきり状態から自立歩行を獲得し在宅復帰された一症例」という演題を発表させて頂きました。

準備期間は抄録やスライドの見直しをすればするほど直したいところが見つかり、当日はそのまま発表して良いのかと不安に感じていましたが、いざ発表となると考える間もなく夢中でした。多くの先生方に聞いていただき嬉しく思いました。しかし、発表や質疑応答を終えて、自分の伝えたい事が上手く伝えられず、表現力・文章構成力の低さを改めて実感しました。

今回の発表を通して、症例が在宅復帰できた時の自分と症例の喜びを思い出し、今後も頑張っていこうという思いを再確認できました。また、発表時に感じた表現力等の乏しさを今後少しでも磨き、他職種や利用者さん等への説明などが、よりスムーズになるよう努力しようと思いました。

最後に、発表にご協力頂いた症例・ご家族様、ご指導して頂いた職場の方々、運営スタッフの皆様に心より感謝いたします。

Report 3

春日居リハビリテーション病院 北嶋 典先生

今回、職場の上司の方に声を掛けていただいたのがきっかけで、第14回学会に参加させていただきました。

発表前に科内でリハーサルをさせていただいたり、何度も練習したにもかかわらず、発表が始まる直前までは緊張で「嫌だ、嫌だ・・・」と思っていました。発表中にはパワーポイントを操作する手が震えたり、操作を間違えたりしましたが、何とか終えることができました。

発表を終えて感じたことは、「今回やってよかった」ということでした。背中を押していただいたのがきっかけで始めましたが、準備をする過程では様々なことを学び、考えることができ一歩前に進むことができたような気がしました。それも、発表までに何度もチェックしていただいた先輩方、後輩や共に準備をしてきた発表者の方のおかげだと思います。自分ひとりではできなかつたと思います。

また、他の発表者の方々の発表を聴き、今回私は症例発表でしたが次回は研究をやってみたいとも思い、良い影響を受けました。

今回の経験を通して一歩前に進むことができたので、これで終わりにせず努力し続けていきたいと思えます。



各部 活動報告

学術局発

FILE 1

第4回学術研修会 報告

平成23年2月6日(日)に山梨県JA会館にて第4回学術研修会が開催されました。『浮腫のリハビリテーション ～最近のトピックスを含めて～』をテーマとし、埼玉県立がんセンターの吉原広和先生を講師にまねき、講義と実技を行いました。

講義ではリンパについての生理・解剖学の話と、実際の症例に対する対応について教えていただきました。午後は『浮腫』に対しての徒手療法、テリーネット(伸張性筒状包帯)や自着性包帯を使った圧迫のかけ方など一連した介入を実技・実演していただきました。

リンパドレナージュの実技に参加して感じたことは、普段思っている以上に軽く触れ、筋肉を動かさずに皮膚をずらすというイメージでした。

午前中の講義でも聞いたリンパの存在する位置が皮膚と筋肉の間にあるため、筋肉には刺激をせず、表在にあるリンパの流れを作っていくといった感じでした。講義の中で、リンパドレナージュだけが『浮腫』への対応ではなく、圧迫と運動を組み合わせて行っていく必要があることも強調されていました。

半日の実技時間では、とても短い時間のように感じ、別の機会にその他の実技などを紹介してほしいと思うような学習会でした。

巨摩共立病院 中島 望

●問い合わせ先：学術局学術研修部 名取

(甲府共立病院リハビリテーション科内 TEL 055-226-3131)

学術局発

FILE 2

第2回生涯学習部研修会 報告

平成22年11月9日(火)、26日(金)に生涯学習部の新人教育プログラムⅡの研修会が石和図書館で行われ、饗場康先生、川野正巳先生、廣瀬昇先生、北山哲也先生の4名の先生方にご講義をしていただきました。対象は2年目以上の新人教育プログラム未修得者に対し研修会を行い、9割以上の入会2年目の先生方が参加しました。研修会では、在宅に向けての生活環境の支援、臨床現場における人間関係、研究の進め方、症例検討の4つの講義をしていただきました。

講義では、チーム医療としての重要性を再認識させられるだけでなく、医療人としてのマナー、そして社会人としてのマナーを学び、当たり前のことではありますがマナーの奥深さを学びました。また、臨床の経験の一つ一つ積み重ねていくごとに、患者さんの身体機能だけでなく、生活環境や患者さんを取り巻く背景など多くの面から関わり、問題を解決していくことが必要だと感じました。また、今回の研修会を通じ疾患そのものに対する治療や、その治療効果を研究の分野で理論的に他者へ説明が出来るようになりたいと感じました。3年目の学会発表では、研究を進め知識を深めていきたいと思います。

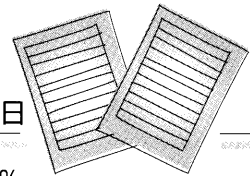
山梨リハビリテーション病院 荒井 望

●問い合わせ先：学術局生涯学習部 遠藤

(山梨リハビリテーション病院理学療法課内 TEL 0553-26-3030)

理学療法士に対するアンケート調査集計結果

平成23年1月25日

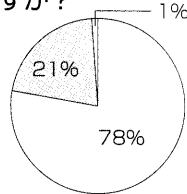


発送日：平成22年12月2日 回収締切日：平成22年12月18日 回答者数：176名 回収率：40%

(単位：名)

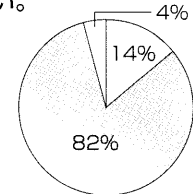
Q1 回答される方はどなたですか？

<input type="checkbox"/> ご本人	138
<input type="checkbox"/> ご家族	36
<input type="checkbox"/> 未回答	2



Q2 入院期間をお聞かせください。

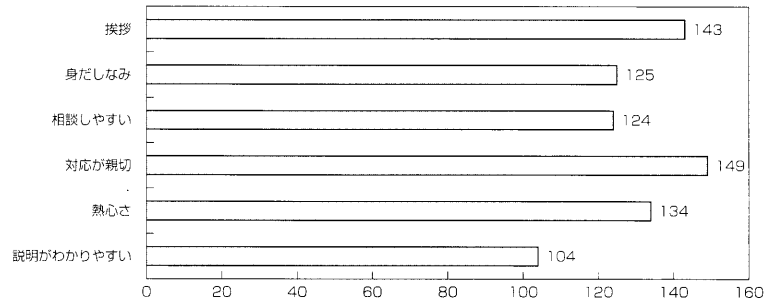
<input type="checkbox"/> 1ヶ月未満	24
<input type="checkbox"/> 1ヶ月以上	145
<input type="checkbox"/> 未回答	7



Q3 理学療法士について好印象な点に○をお付け下さい(複数回答可)。

挨拶が気持ちよい	143
身だしなみが清潔	125
相談しやすい	124
対応が親切	149
熱心さが感じられる	134
説明がわかりやすい	104

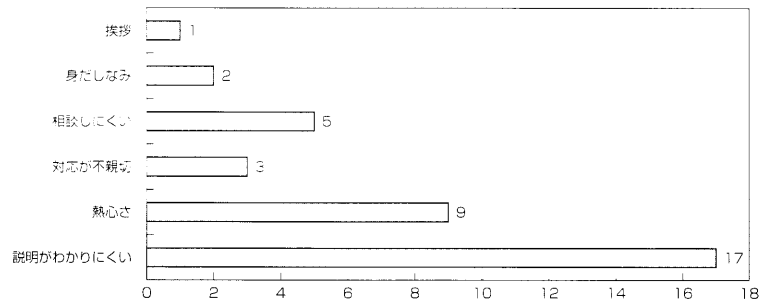
その他…別紙参照



Q4 もう少し改善が必要と思われる点に○をお付け下さい(複数回答可)。

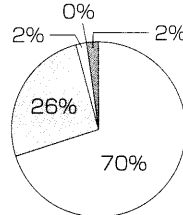
挨拶がない	1
身だしなみが不潔	2
相談しにくい	5
対応が不親切	3
熱心さが感じられない	9
説明がわかりにくい	17

その他…別紙参照



Q5 設問3・4をふまえて、全体としていかがですか？○をお付け下さい。

<input type="checkbox"/> 満足	122
<input type="checkbox"/> どちらかといえば満足	45
<input type="checkbox"/> どちらかといえば不満	3
<input type="checkbox"/> 不満	1
<input type="checkbox"/> 未回答	3

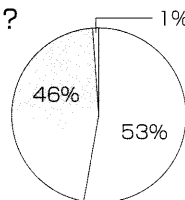


Q6 今後理学療法士に何を望みますか？ ご意見をお聞かせ下さい。

別紙参照

Q7 入院前から理学療法士をご存知でしたか？

<input type="checkbox"/> はい	94
<input type="checkbox"/> いいえ	81
<input type="checkbox"/> 未回答	1



平成22年12月県士会会員所属の医療施設45施設に協力していただき、患者様・ご家族対象に、「理学療法士に対するアンケート」を実施しました。結果は回答者数176名、「満足」「どちらかといえば満足」は全体の95%、「どちらかといえば不満」「不満」が2%でした。対象者は無作為抽出ではなかった為、比較的よい結果になることが予想されましたが、改善すべき点・各自意識し取り組むべき点も明確になりました。PTに対する感謝のお言葉もたくさんいただきました。

患者様やご家族の気持ち・意見・要望を私たち一人ひとりが確認し、日々の業務に活かしていければと思います。詳細は各施設に送付させていただきますので、ぜひ参考にさせていただけたら幸いです。

また今回の結果を県士会主催の研修会にも反映し、士会全体としても『資質向上』に向け取り組んでいければ良いと考えております。

お忙しい中、ご協力いただいたご施設・会員の皆様に深く感謝致します。ありがとうございました。

調査研究部 横小路 吉美



専門領域研究部会の登録をお願い致します

2009年度より、新たな専門理学療法士制度が開始されています。新人教育プログラム修了後、1つ以上の専門領域研究会に登録することが義務付けられています。7つの専門領域研究会から、合計23領域の認定理学療法士が誕生しています。現在、移行期間ということで会員のみなさまには十分な理解が得られていない状況の中、新制度がスタートしており、ご不明な点も多々あるかと思えます。山梨県士会としても随時、専門・認定理学療法士制度についての情報を更新していきます。詳細につきましては、日本理学療法士協会HPをご参照ください。

専門領域研究会登録がお済でない先生方は、まず、「専門領域研究会登録」の手続きをお願い致します。

必要書類に関しては、山梨県理学療法士会のホームページにも掲載してありますのでご確認ください。

「山梨県理学療法士会」→「生涯学習」→「専門領域研究会登録申込書」より、必要書類が取得できます。

●問い合わせ先：学術局生涯学習部 遠藤公士・小林遼（山梨リハビリテーション病院 TEL 0553-26-3030）

事務局
より

●変更手続きについて●

会員データに変更（異動・休会・復会・退会）がありましたら、届出が必要になります。士会HPに、各種届出用紙があります。郵送にて、早急に手続きを行って頂けるようお願いいたします。

入会をされていない新人会員の方は、早急に会員登録するようお願いいたします。

- 異動（勤務先変更・自宅住所変更・改姓・転出入等）が生じた場合は、速やかに事務局へ異動届をご提出ください。
- 各種届出用紙（異動・休会・復会・退会）は協会HP及び士会HPにてダウンロードできます。
- 県外異動については、異動前及び異動後の各都道府県士会事務局へ提出ください。
- 提出時には捺印のご確認をお願いします。（捺印がない場合、処理致しかねます）

●慶弔申請の窓口は事務局です●

慶弔事項（一親等及び配偶者）が発生しましたら、電話番号・住所等を事務局まで速やかにご連絡をお願いします。

●会員証のお申し込みはお済みですか●

会員証は今後、研修会・選挙等の参加の際に必要となります。協会も推進しており、皆様のご協力のほどよろしくようお願いいたします。

ご不明な点につきましては、下記問い合わせ先にご確認下さい。

●問い合わせ先：事務局 斎藤（甲府城南病院リハビリテーション科内 TEL 055-241-5811）



会員のひろば

〈会員の声を紹介するコーナーです〉

1年目・5年目・10年目の先生方にそれぞれ
振り返っていただきました。

一年間を振り返って

しもべ病院 小林 亮大



1日1日があっという間に過ぎ、就職してはや1年が経とうとしています。就職したばかりの頃は、なかなか学生気分が抜けずふわふわしていました。しかし、理学療法士として初めて患者様と接したとき「先生」と呼ばれ、そのふわふわが無くなり一気に緊張感が増しました。それと同時に今まで呼ばれ慣れていない「先生」言葉に違和感を感じました。そんなこんなでもう1年が終わろうとしています。日々、患者様の治療を行っていく上で「本当にこれでいいのだろうか」と迷うことが多くあります。そんなときには先輩方や同期の仲間たちが時に優しく、時に厳しくアドバイスをしてもらい、あっという間に1年間を過ごすことができました。今、ようやく理学療法士としてのスタートを切ったばかりであり、今後、自分自身が「なにをすべきか」をしっかり考えていけるようにしていきたいと思います。1年目の経験を2年目に活かし、失敗を恐れず何にでも「トライ」していき、「知識」や「技術」の向上を図り、少しでも患者様をよくできればと思います。最後に、仕事を通じて1人の人間として、また社会人として大きく成長していきたいと思います。

5年間を振り返って

恵信甲府病院 猗股 あづみ



入職当初、社会人としての責任や患者様との関わりに戸惑い、毎日をただ一生懸命過ごす日々が続いた1年目のことが、ついこの間の事の様に思い出されます。気が付けばこの5年間、あっという間に過ぎてしまいました。初めて学生を担当した時の事は今でも忘れられず、こんな自分が指導者をしていいのかと不安な気持ちでいっぱいでした。自分の考えをまとめ人に伝える事の難しさ、自身の知識不足への焦り、責任の重さを痛感しました。また、学会発表や指導者会議を通じ、他の理学療法士の先生と関わる機会が増え、様々な考えや意見が聞けて勉強になると同時に、自分を見つめ直し反省する場となりました。理学療法士はやりがいのある仕事ですが、悩む事も落ち込む事も多くあります。「本当にこれでいいのか」「何をしたいのか」日々自分との葛藤です。私が理学療法士として働いていられるのも、外見は黒くて怖いけれども心は白くスタッフ思いな橋田部長を筆頭に、時には仕事に時には遊びに一生懸命な、厳しくも優しく頼れる先輩・後輩と共に働ける恵まれた環境にいたからこそだと思います。自分に甘えてしまうこともありますが、専門職として、常に知識向上に取り組んでいくことはもちろんのこと、初心を忘れず、人として、社会人として、理学療法士として成長できるよう、ますます努力していきたいと思います。

10年間で振り返って —他愛もないつばやき—

慶友会 城東病院 稀代 敏文



「今日もいい天気だね・・・〇〇さん。元気け・・・。」「先生のお陰で・・・達者だよ。」あの頃は・・・。患者さんとのこんな他愛もない会話を交わしながらリハビリ業務に取り組んでいたように思う。当時は外来リハビリの患者さんもいたから他愛もない会話の印象が強いのだろう・・・。この10年間で振り返ってみると、前半の5年間は、外来の患者さん達や入院の患者さん達と楽しくおしゃべりしながら業務に取り組んでいたことが強く思い出される。我が病院は療養型の病院で、入院患者さんは慢性期の高齢者を対象としている。そのこともあって、元々、ADL訓練が十分にできるリハビリ対象の患者さんも少ないのだが、その代わり冗談や他愛もない会話を交えながら和気藹藹とリハビリを進めていたような気がする。後半の5年間は、国の医療費削減の波が現場を一変させた。リハビリの医療保険点数減算に続き、慢性期リハビリの制度そのものが改正された。医療でのリハビリから介護保険でのリハビリへと切り替わった。外来医療のリハビリも消滅した。現在私は、介護療養病棟でのリハビリ業務に専念している。この10年間何をしてきたのだろうか・・・。私自身は何の成果も上げられないまま10年が過ぎた感じがしている。正に失われた10年であった。これからもどうなるのか不透明な点も多い。しかし、リハビリ業務に携わる以上、患者さんやご家族様の気持ちを大切に日々業務に励んでいこうと考え努力している。

ルポ Reportage

「最近の学生の特徴」

学内外の教育を通して、最近の学生に共通して感じる特徴があります。「時間の使い方がヘタで、効率的に生産性を上げることができない」、「自分に興味があることはものすごく関心を示すのに、それ以外のことには全く関心を示さない」、「友人関係が希薄で、本心を語る経験が日常的に少ない」、「必要な援助を他者に求めず、未熟な自己判断で安易に行動してしまう」、「他罰的、他責感自己愛傾向にあり、自分の非を認めない」などなど・・・。勿論以上のことは全ての学生にあてはまるということではなく、あくまでも全体的な傾向として捉えてください。学生のこのような特徴は、家庭での育成環境、学校での教育環境、友達関係、社会情勢など様々な要因と様々な個人差により複雑に影響され形成されており、一概には学生個人を責めることはできません。

そうは言いますが、4月からは医療の最前線で働く新卒学生は、医療人として組織に属する以上一定の資質を備えねばならず、各職場で新人教育を担当する先輩PTの方々のご苦勞を思うと頭が下がります。そこで、そのような新卒学生を指導する際に、少しでもお役に立てればと思い学校で実践している学生指導のポイントをお伝えします。

1. 新卒学生と本音を言い合えるような人間関係を構築する。(希薄な人間関係しか経験がない場合、何でも言える雰囲気作りと、時間をかけて会話する努力が必要です) 2. 指導する際はより具体的にそして客観的に。(抽象的な例を挙げて指導しても響きません。具体的にどこがいけないのか指摘し、なぜそうしたのか考察させ、第三者ならどう思うか分析させます) 3. 時には突き放すことも必要。(懲罰的な意味でなく、あくまでも教育的な意図をもって成長を促します)

平成22年度の新人社員を評して「ETC型」(公益財団法人日本生産性本部) だそうです。23年度はどのような新人が誕生するか興味深いところですが、「袖振り合うも他生の縁」といいます。同じ職場になったのも縁あればこそ、どうか温かい目で入職した新人を育ててあげてください。

(文責 三科 貴博：健康科学大学理学療法学科教員)

リレーエッセイ ～途絶えることのない バトンを君に～

『リレーエッセイ』とは・・・

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので600字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

今までの Supporters にあった「会員のひろば」と違い、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

Part11-1

湯村温泉病院 井田 徹 先生

甲府共立病院の中澤俊道先生からバトンを預かりました湯村温泉病院の井田徹です。

今回は糖尿病療養指導士について少しお伝えしようと思います。PT 2年目で糖尿病神経障害・ASOにより両下腿切断術後・腎症による維持透析の症例を受け持ったことが（「可能ならもう一度歩きたい」この言葉はいまだに忘れられません）PT人生に大きな炎を灯してくれました。糖尿病の知識が足りず朝まで文献を読んだ記憶があります。2か月の入院で歩行獲得・復職まで果たせましたが、糖尿病患者に対する課題が山積みでした。病態・薬物療法・運動療法・食事療法・リスク管理を学ぶためにPT 3年目で地域糖尿病療養指導士（L-CDE）を取得し、4年目で日本糖尿病療養指導士（CDEJ）を取得しました。PTとして運動療法指導以外に、糖尿病神経障害の評価（写真：モノフィラメント 5.07）や足病変予防としてのフットケア指導、低血糖を防ぐためにインスリン注射・SU剤内服者に対する運動実施時間設定、補食の提案等、幅広い介入が求められています。知っているからのリスク管理ではありますが、「知らないことがヒヤリハット」にならないよう多くのPTにCDEを取得していただき、代謝領域での職域拡大を目指したいと思います。昨年県内の大学教員や病院勤務PTの先生方とで山梨内部障害理学療法研究会を設立しましたので、一緒に勉強し知識を深められたらと思っています。



次回は、『山梨県立あけぼの医療福祉センターの笹本高央先生』です。

Part11-2

県立中央病院 山田友希 先生

山梨北整形外科の坂本稔先生よりバトンを預かりました山梨県立中央病院の山田友希です。坂本先生も私も北杜市の出身でして、毎年厳しい冬を過ごしてきました。雪はさほど降らないのですが、八ヶ岳おろしという北風が身にしみます。

そんな中、週末によく出かけるのが温泉です。日本秘湯を守る会というものをご存じでしょうか。全国各地に交通も不便で小さな温泉宿が点在しており、素朴ながらも心温まると話題になっております。ここ最近では叔母を勝手に会長として(実際にちゃんとした会長もいらっしゃいますが)時間を見つけ、人を募り秘湯を守るために活動しております。(ほんとに勝手な活動です)



その中でひとつお気に入りを紹介させていただきます。御存じかとは思いますが立山黒部アルペンルート
の室堂に「みくりが池温泉」というものがあります。夏はみくりが池や立山連邦が望める素敵な場所ですが、冬はどこもかしこも銀世界！私は去年バスが開通した初日の4月17日に行きましたが、着いた時には猛吹雪……。雪の壁が20mともなるとなんとも自然の脅威を感じざるを得ませんでした。しかし、山の天気は変わりやすく、秘湯に入浴する際には、この天気。ま

さに絶景！雪シーズンは山スキーやスノーボードもできます。旅行会社のまわし者ではありませんが、興味のある方はチャレンジしてみてもいいのではないでしょうか。職業柄、怪我だけはしないようにしたいですね。

次回は、『石和温泉病院の清水友哉先生』です。

原稿を募集しています

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えています。

テーマは自由です。ご投稿、お待ちしております。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

●次回 (No.130 6月下旬発行) 締め切りは、5月下旬です。

問い合わせ先 広報局 会報部 清水真治 (石和温泉病院 理学療法室内 TEL 055-263-0111)

E-mail sinji0012312@yahoo.co.jp

編集後記

会報誌 (Supporters) に携わり約 4 年。今回の Supporters 129 号発行で会報部長としての活動がほぼ終了となります。清水局長を始め諸先輩方・部員・同僚の助けにより、私的には満足できる会報誌を作ることが出来たと思います。(たくさん失敗もありましたが・・・)

山梨県士会員の数は、私が就職した時から比べ約 2 倍 (2003 年 296 名) となりました。これからも会報誌を通じて若い会員の方々が、士会の活動に関心を持っていただけるようお願いしております。

(清水真治)

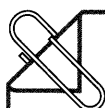
一年間、supporters をご愛読いただき、誠にありがとうございました。士会の活動や公私に渡るご活躍を少しでも伝えることが出来たらと思い取り組んできましたが、皆様のご協力のおかげで、無事に最終号の発行に至る事ができました。やはり、山梨県士会は、「何かをもっている!」と思います。今後も理学療法、山梨県士会が発展できるよう、皆様の「support」宜しくお願いします。

(水上 卓)

ご愛読ありがとうございます。今年度最後となる Supporters を無事に皆様へお届けできることを嬉しく思います。

今回の会員のひろばでは、1 年目・5 年目・10 年目の先生方に今までを振り返り原稿を書いていただきました。私も過去を振り返り・・・思い考える事がたくさん溢れ返ってきました。時々過去を振り返ることは、前に進むことへも良い機会になると感じました。皆様にとってはいかがでしたか?

(中込恵美)



- 発行 ● 山梨県理学療法士会
- 代表 ● 谷村 英四郎
- 企画・校正 ● 清水 文彦 清水 真治 水上 卓 中込 恵美
- 編集・印刷 ● 有限会社 ナカガワ
- 会報部 ● 〒406-0023 山梨県笛吹市石和町八田 330-5
石和温泉病院 理学療法室内
Tel 055-263-0111(代) Fax 055-263-0260 E-mail sinji0012312@yahoo.co.jp